

ベトナム木造伝統民家保存プロジェクト
2001年度ナムディン省

スワンソン村ダン氏祖堂保存修理工事報告書

昭和女子大学国際文化研究所

〔日本建築〕セミナー

現地修復指導 家泉 博

1. スワンチョン県スワンソン村の地理

ダン氏祖堂の所在するナムディン省スワンチョン県スワンソン村は、ベトナム社会主義共和国の首都ハノイより、南南東約140kmにある。ベトナムの動脈である国道1号線をハノイより南下して、フーレイと言う町から1号線より別れ、さらに21号線に沿って約28kmでナムディン省の省都ナムディンである。ここは省都ナムディンより、さらに約18km海岸に寄ったところにあり、海岸までは15kmほどの位置である。付近にはソン・ホン河が流れるデルタ地帯を擁し、あたり一面の田園地帯である。また、ナムディン省は、ベトナムではめずらしく、フランス統治時代の教会建築の多いところでもある。田園地帯に大小さまざまな形態と様式を持つ教会の建ち並ぶ景色は、他省に無い特有の景観である。そのうえベトナムの歴史にとって、重要な位置を示す証拠となる、重要文化財の陳廟を擁している地域でもある。

2. ダン氏祖堂の概要

修理対象の祖堂は、創建時は祖堂としての役割ではなく、住居として使用していた。そのため、祖師堂としての特徴より住居としての要素を含んでいる。敷地内には、当遺構の背面側に取り壊された住居跡を残し、左背面側には住居として必要な便所、浴室、台所、井戸設備などの建造物を備えている。また、当家の屋敷外には一族の住居が散在し、

歴史的景観を残している。ナムディン省の文化財調査報告書によれば、聞き取りで130年前の建築となっていて、省内最古の木造住宅ということになっている。故ベトナム大統領のチョンチン氏は当地を統合して治めていた村長の家系で、当遺構も近代のベトナム史に重要な役目を担っていた。このため、ベトナム戦争時には軍の施設として利用され、一時は家族の所有から離れてしまう。その後に持ち主の手に戻り、必要な形式に改造して利用してきた歴史をもっている。持ち主の聞き取りに寄れば、当遺構の大きな改造年代は1947年と1982年の2度である。解体工事をしていくうちに当遺構の正面右手側の飛貫上部には、当家の繁栄を祈願した建造年代の暦を、人目につかぬように留めてあった。これによれば、「大南嗣徳十九年歳次丙寅協〇〇〇」となっている。省の博物館員で、歴史と漢字に詳しい学者に聞くと、不明な漢字は「吉上頒」と書かれているとのことであり、当遺構の建造年代は、1866年に建て始めていると推定される。暦の内容については歴史学者に翻訳を依頼して解読した。

3. 建物の形態

3.1 平面構成

平面形式は間口3間×3間の主室を中心に、その前面に2間分の「庇」を付加えて奥行きを5間とし、左右にそれ



写真-1 工事中

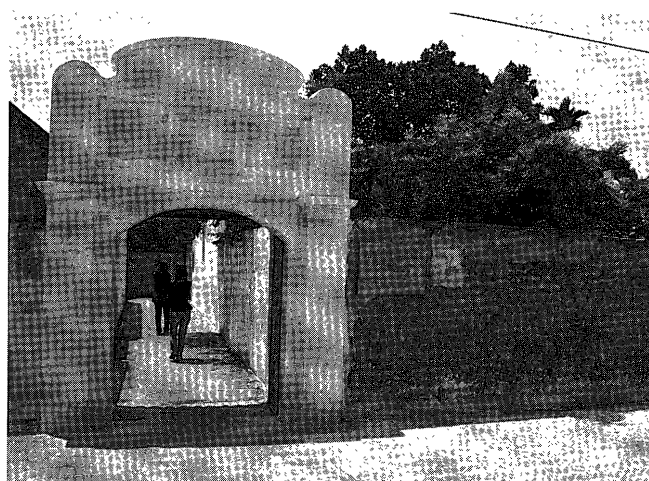


写真-2 工事完了後の入口

ぞれ側室2間を加えて間口7間としている。この地方の特徴は、主室の前面側は子柱を取り払い、広い開放空間にし、左右の側室は対称に配列した平面をしている。主屋である本建造物は周囲より約40cm高い位置に建ち、前面側は左右の側室を主室より1間出して、主屋を囲むようになることにより、底部分の開放空間は変化に富んだ空間にしている。家屋の前面7間は全て開口部であり、その建具は床より約45cmの高さに中敷居を置き、主室側に棧唐戸、側室側に板戸を内開きに納めている。主室は先祖壇と、接客空間とし、左右の側室は寝室とし、開放された底部分は家族部屋としている。

3.2 軸部架構

建物内部には天井は無く、梁や貫などによる架構をはっきりと見てとれる。正柱上端を奥行方向に繋ぐ小屋梁と、それより上部の小屋組と下部の軸組から構成される。軸組には各柱を連結するための水平梁と横架材「飛貫」を用いている。正面側には湾曲した斜梁を側柱と正柱間に架け、背面側は反りのある斜梁を正柱より持ち出して架けている。柱高さは主屋中央部分から、左右の妻面側に向かって、高くして架構して屋根に緩い勾配を造るようになっている。

小屋組は、湾曲した斜梁の上と垂木の間には、桁行方向の「母屋」を受けるために板壁をつけて、梁間方向の小屋受けとしている。背面側の反りのある斜梁にも、母屋受け用の板壁をつけて母屋を受けている。これに対して、桁行方向は飛貫にて相互の連結をしている。母屋は棟から側柱まで全て角材である。母屋上の垂木は板材で、幅10cm厚さ12mmほどとして15cm間隔に並べている。また、先祖壇上部垂木は他のところと異なり、幅15cm厚さ7.5mmほどの板を隙間無く敷き並べている。垂木の上には直接煉瓦を敷き並べて、その上に瓦を葺く。屋根は切妻で、下地に葺いた煉瓦を左右に向かって、屋根全体に緩い反りを造り、その上に葺く瓦も反りのできるように下地瓦を施して葺く。妻部分での葺きしろは45～50cmにもなっている。(聞き取

りによると、月の形をイメージして空を飛ぶように、家族の発展を祈って造る) 屋根勾配は約7/10である。

4. 修理工事の内容

4.1 修理に至る経過

ベトナム全国民家調査に基づき本建造物を修理対象物として選定し、2001年に現状調査を行って、修理の基本方針の策定、ならびに工事費算出のための基本設計を行った。同年工事施工の候補者に対し、見積書の提出を依頼する現場説明を行い、工事を担当したナムデイン省の「工務店」と契約を締結した。

2001年11月、日本より監理者が現場に着任し、ベトナム社会主義共和国、文化情報省文化財保存局と工事に対する協議を行い、これにより日本から「日本建築セミナー」会員の家泉博を常駐者とし、ベトナム側より文化情報省文化財保存局のMr. タインとナムデイン省より博物館員のMr. フォン、それに通訳のMr. ヴィエットの4人を調査設計監理チームとする体制が整った。

4.2 修理工事の概要

工事は、監理チーム編成に先立ち仮設工事を先行して行い、素屋根や仮設現場事務所を造り上げた。調査設計監理チームは現場着任後、はじめに現状調査の補足をし、詳細な調査に着手して進出した。具体的な主体工事として建具を撤去して、現状の瓦調査をしその後瓦解体へと移行する。調査設計チームは、工務店の工事施工と平行しながら、漏水・蟻害・風化等による破損調査、経年の改変による痕跡調査、現状の工法調査、ナムデイン地方の木造建物の特徴調査を行った。瓦の解体時に分類してみると、5種類の瓦を確認した。これらのどれを当初と判断するという要素は見当たらなかったため、寸法のみを採取し古い瓦要素を数多く持った形式にて発注することにした。発注した瓦には、今回の期日を刻印したものにした。続いて、垂木・母屋・小屋組・軸組・柱の解体と進出した。この解体にあたって



写真-3 工事前の外観



写真-4 工事完了後の外観

は、当地の大工の指示に従い行った。その後、全材料、瓦・木材・煉瓦・石他の判定作業を行い、再利用材と修理材、取替材の3種類に区分し、これに基づき材料明細書を修正して使用材料の補充分を発注した。材料判定時に木材については特に詳細な繕い方針を策定し、図面化し方針を定めた。材用が現場に着くと木材の繕いを行った。この作業は本修理工事にとって最重要で、量的にも多くの割合を占める業務であり慎重に作業した。木材の修理や繕いを行っている期間に、基礎の補強修理工事を行った。復原的工事は現状の材料と工法を踏襲して、破損等により取り替えた分を補充して施工した。

2月にはいり、繕いと新材加工に見通しをつけ、軸組の建て方に取り掛かる。建て方は解体時とは異なり、ナムデイン省の特徴調査をして検討したことを理解し立証しながら行い、テト前2月8日には主軸組を組揚げた。テト後2月18日より工事を再開して、軸組の調整をして柱間装置の加工をし取り付けした。その後は垂木取り付け、瓦葺きと続けて施工する。上部建物の作業を終了した段階に達した後、床の仕上げ作業に着手する。床仕上げは間取り調査と、聞き取り調査に基づいて検討し、叩き仕上げを基本方針として協議した。所有者は、現状仕上げを煉瓦床としていたので、そのままの状態もしくは四角の煉瓦床を希望した。互いの折衷案として左側室内を叩き仕上げとし、他室と底下は四角煉瓦床にて施工した。

これで、主体工事を完了して、架設の素屋根を撤去し、建物周辺整備に着手する。周辺整備としては、当遺構背面側庭に残る住居跡の煉瓦床による表示、敷地内見学通路と庭に煉瓦床を施工、敷地内にある他建造物の修理と整備、道路より遺構敷地内入り口門の整備、通路の煉瓦床整備、道路に接続する敷地内堀の整備、敷地外見学の駐車場の整備などの周辺を整備して、当遺構の文化財的活用を図る施工をした。

5. 建造物の構造

- 1) 構造：木造一階建
妻壁：煉瓦造

- 2) 規模：

床面積	94.53㎡
水平屋根面積	103.53㎡
軒高前	2.042m
軒高後	2.660m
棟高(中央部)	4.149m
最高高さ(妻側部)	4.252m

- 3) 使用材料：現状 仕上
- | | | |
|----|---------|---------|
| 床 | 煉瓦 | タタキ |
| 軸部 | リム材 | リム材 |
| 壁 | 煉瓦+漆喰 | 煉瓦+漆喰 |
| 屋根 | 敷煉瓦+鱗型瓦 | 敷煉瓦+鱗型瓦 |

6. 修理工事の組織「現地関係」

A. 日本側関係者

- 1) JICA
2) 昭和女子大学 友田博通
マーク・チャン
3) 日本建築セミナー 増田千次郎
家泉博

B. ベトナム側関係者

- 1) ベトナム国文化情報省 ダン・バン・バイ
グエン・クオック・フン
チャン・デイン・タイン
2) ナムデイン省文化情報局
3) ナムデイン省博物館 ブー・ホン・フオン
4) ドンドー日本語センター(通訳) ゴー・ダン・ヴィエット
5) 工務店 マイ・バン・タン
グエン・バン・デュック

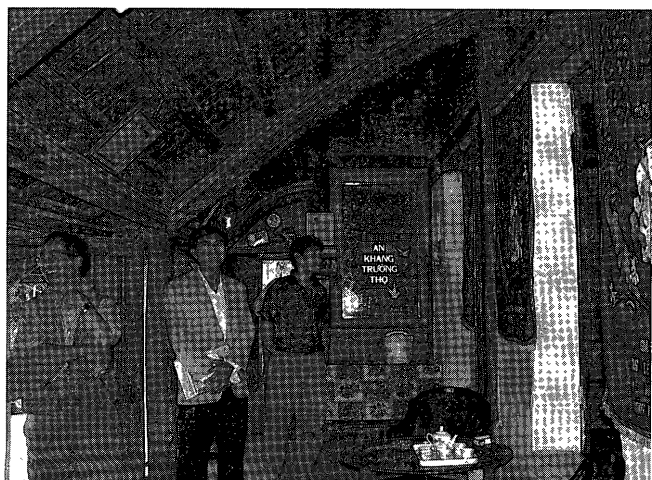


写真-5 工事前のヒエン



写真-6 工事完了後の軒下